

令和6年「水路記念日」海上保安庁長官表彰について

令和6年(2024年)9月12日は、明治4年(1871年)9月12日に兵部省海軍部水路局が誕生し、我が国の海図作製が開始されてから153回目の「水路記念日」です。海上保安庁では水路記念日にあたり、海洋情報業務(海の調査や海洋情報の提供)に貢献した個人や団体に対し、海上保安庁長官表彰として感謝状を謹呈しています。

この度、地質情報研究部門の池原 研首席研究員が海上保安庁長官表彰を受賞しました。受賞理由は、「海底地形名の統一及び標準化に関する長年の功績」です。池原首席研究員は、海上保安庁海洋情報部が行っている「海底地形の名称に関する検討会(JCUFN: Japanese Committee on Undersea Feature Names)」の委員を18年間にわたって務めてきました。この功績が評価を受けたものと考えられます。また、地質調査所(現地質調査総合センター)OBである山崎晴雄氏(東京都立大学名誉教授)も同じ功績により今回受賞しました。今回は、池原首席研究員と山崎氏を含めて「海底地形名の統一及び標準化に関する長年の功績」で個人3名、「水路測量・調査業務」の功績で個人4名、「水路の測量又は海象の観測に支援・協力又は資料提供」の功績で個人1名と16団体が受賞しました。

ほとんどの方には、「海底地形の名称」に馴染みがないと思いますので、受賞の理由となった「海底地形の名称」について少し説明したいと思います。海水の下にあるので目には見えませんが、海底には陸上と同じように山や谷、

盆地などのさまざまな地形があります。海底地形の名称をそれぞれが勝手に名づけて呼んでしまつては混乱を招きます。そこでJCUFNで海底地形名の審査を行います。海底地形には原則として、近傍地名、船名、海洋に貢献した個人名・機関名などに因んだ名称をつけることになっています。また、海底の地形名称には国際的な統一基準があつて、国際水路機関(IHO)の刊行物である「海底地形名称標準」にそれぞれの地形属名などの定義がとりまとめられています。したがって、この国際的基準に沿つて名称がつけられることになります。さらに、JCUFNでつけられた海底地形の名称は、IHOとユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)との共同プロジェクトである大洋水深総図(GEBCO)傘下の小委員会の一つである海底地形名小委員会(SCUFN: GEBCO Sub-Committee on Undersea Feature Names)の場でその妥当性が審議され、承認を受けます。これまでにJCUFNで承認された海底地形名称は海洋情報部のホームページに、SCUFNで承認されたものはIHO/IOC海底地形名集(https://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/ 閲覧日:2024年9月13日)に登録され、公開されています。JCUFNでこれまでにつけられた海底地形の名称では、その大きさから映画のゴジラに因んでつけられたゴジラメガムリオン地形区とその中をゴジラの身体の部位に合わせてつけられた14個の地形名というものもあります。その他にも星座や文豪、元号、



写真 表彰式の様子。池原氏と他の受賞者。



春の七草や秋の七草に因んだものもあります。地質調査所に関係する人に因んだものとしては、石和田海底谷や大町海山、本座海山、玉木海山があります。

海上保安庁海洋情報部は、海図作製のほか、領海・EEZなどの権益確保に向けた海底地形等の調査、さらには海洋の環境問題や地震などの災害への対応など、海洋に関する様々な調査を実施するとともに、他機関、民間等から提供される情報も取り入れて、船舶の安全運航や漁業、防災、海洋開発といった利用シーンに応えるために、海洋に関す

る情報提供を行っています (<https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/r6/k240912/k240912.pdf> 閲覧日：2024年9月13日)。地質調査総合センターでは長年にわたり、海洋での地質調査に基づく海洋地質図の作成、地震や火山の調査や、資源ポテンシャル調査等を行ってきています。今後も国の海洋政策や研究開発に大きく貢献していきます。

(地質情報研究部門 荒井晃作)